

## コロナ第6波高止まり・ウクライナ情勢

先皆さんこんにちは、お元気ですか？四月です。

今月もコロナから始めなければなりません。

『まん延防止等重点措置』が先月下旬の連休あけに、全国的に解除になりました。

第6波のピークの下り傾向が見えるようになり、新学期が始まること、そして何よりも長期間の経済の停滞も、政治的判断の大きな要因になったようです。

しかし地域的には発症の高止まりも有り、決して安心できる状況では在りません。

わが山形県も厳重な警戒態勢を緩める状態ではなく、クラスターの発生予防などに大きな力を傾けなければならない状況です。

幼児、学童の発症が多いのです。

予防を担うワクチン接種は順調に進んでおりますが、年齢区分での追加や4回目の追加接種等検討することが沢山あります。

新たな変異株の出現も気になるところです。

しかしいずれにしても身の回りの基本的な行動・日常生活を遵守して、更にその時々々の状態に対応することが一番です。



ウクライナ問題に関して、ニュースで判断する限りは、ロシア大統領の判断の誤りと見た方が良いと思われれます。

大昔に行われていた陣取り合戦が今の世にも存在する事が、いかにおかしな事なのかが判りますし、そのことで掛け替えのない命が失われることなど有り得ない事なのです。

多くの避難民の映像が示されておりますがそこに見えるのは生活に困った難民ではなく、こざれいな服装をした子供たちなのです。

今ある生活がブツリと断ち切れ、思いもよらない境遇下に飲み込まれてしまうことが、いかに現実離れした恐ろしいものであるか……

日本に暮らしているからこそ正しく判断出来る事なのだと思います。

ミャンマーでも、中国でも、近くは北朝鮮でも、矛盾だらけの日常が当たり前になっているのが現実なのですよね。

来月は、明るい内容でまとめられれば、バンザイなのですが……。

院長 清治 邦夫